

いの流水俳壇

「当季雑詠」

松尾 満津於選

錦秋の大和三山華やげり

植田 紀子

(評)大和三山は奈良県橿原市にある畝傍山、耳成山、天香久山の三山合わせた総称である。日本初の都「藤原京」を三角形に囲む形で対している、山の高さは三百メートル前後の低い山であるが、周囲が大和平野であるだけに特に目立っていたのであろう。

十二月人集まれば歌うたう

大西 昇月

(評)十二月である、集まる人はどんな顔触れだろう。なつかしい顔、同期、先輩、後輩、馴染みの顔、久し振り、老若男女、クラス会、忘年会、趣味、クリスマス、町内会。人が集えばその都度歌が出る。歌は世につれ、世は歌につれ。歌は天下御免の共通語、歌は人を和し、理屈は人を隔てる。歌えば心の憂さをふっ飛ばす。

新之丞果てし峠の紅葉濃し

友草 水月

(評)新之丞はいの町横敷で紙の原料から製品になるまでの工程を指導してくれた、土佐和紙の始祖である。当時の世相

は原地秘密主義であったので、紙の原料、紙を作る工程が再び他所に伝えられることがないようにと、指導してくれた新之丞を斬殺するという。理不尽な伝説が残っている。「紅葉濃し」と言い切った伝説の重さを痛感させる句。

枯蓮の池の水より暮れにけり

岡本とも子

(評)「池の水」より他の物を想像させない表現である。この蓮池はかなり大きな池であろう。「池の水」より暮れるということとは、池に影となる草木がないということだろう。照りつけていた太陽が西に沈むに随って、だんだん暮れてゆく日暮れの太陽を感じながら、池の端に佇む作者の姿を想像すれば、そうか、そうかと情景に納得ができる。

振り返るひまさえ持てず年の暮

森元二美子

(評)この句の情景は、多かれ少なかれ主婦たる誰もが、身近にまつわる内容を秘めている。個人的で、限りなく日本の主婦の姿。きざまれた年輪が深さを見せている。家庭生活で、多忙なのは主婦ばかりとは限らない。女と男の違いは子どもを産めるか産めないかだけである。他は何も違わない。炊事、洗濯、家事、育児。すべてが平等であり男女の差別は全くないのである。できる人が、できる時、できることをするというだけのこと、それがほんとの男女平等である。女性だけが年を

取るのではなく男も同じである。振り返るひまも、休む時間も、喜びも悲しみも共に限られた人生を謳歌したいものである。

屍とはならず十二月八日かな 間 浩太
裸木に寒空支う力あり 片岡 包女
凧や使いきったるボールペン 刈谷 志津
石垣の語る栄枯や山眠る 竹崎 光子
晩秋や風の楽譜に佇みて 大川 節弥
千金の夢買う列に師走風 川村 博子
木の实降る童しきりに笑ひをり 津田 久美
禰宜の声太鼓にのまれ冬の山 井上 郁子
冬蝶の吾が三尺へ止まりけり 川上こよね
ふる里の水音冬ざれいたりけり 川村千因子
冴え返る天空の月皓皓と 秋田 律子
短日や何もせぬ日に肩凝りぬ 中野 好子
丸い顔赤く照らした吊し柿 森岡 照月
五歩十歩々行訓練春のうた 小島 良
白障子母の霧吹き目に残り 楠目 哲郎
蒟蒻をあなたあなたに里土産 弘瀬うき子
冬陽照る岸に背干す子亀かな 川村 愛
蕪。漬けほどよく出来て京に馴れ伊藤 たみ
あかね空仰ぎて今日は冬至なる 筒井 文
妻の居ぬ一人の部屋の寒さかな 松尾満津於

次 題 「当季雑詠」
締め切り 毎月15日

投句先

吾北教育事務所 上八川甲2010

TEL 867-2133

有料広告

医療法人 森木病院

光生会

院長 森木 光司

吾川郡いの町3674 TEL (088) 893-0014

内科
外科
小児科
循環器科
消化器科
リハビリテーション科
人工透析